

7 抜針事故防止に対する一考

医療法人道悠会松本中川病院透析室看護部 小松芳美 北谷典子

【目的】高齢化に伴い、当施設でも高齢者の透析導入や維持透析者の高齢化が見られる。

透析導入を契機に認知症になる事もあり、不穏症状が出現し危険が伴う。

その為透析が安全に行えるよう援助する必要がある。今回、我々は、認知症患者に対して、アセスメントをし、工夫を加えながら介護を行い、安定した維持透析が可能であったので報告する。

【対象者の問題点】

- 1) 透析療法が認識できない。
- 2) 患者との疎通が図れない。
- 3) 自己管理能力が無い。
- 4) 筋力低下により転倒の恐れがある。
- 5) 徘徊、転落する恐れがある。

【方法】パジャマの袖にファスナーを付け、襟元より回路を通し、指に持たせないようにした。

【結果と考察】指に回路を持たせなければ、指が自由に動かせる為、回路が気にならず抜針事故も無くなった。

患者の言葉に傾聴し否定せず、また、透析中の体位等も無理強いせず、穿刺部の確実なテープの固定や回路を指に持たせない事で抜針事故防止に効果が得られた。